

弘前中央高校 古川 遥

私が学校でこの研修の応募用紙を見かけた時の感想を正直に言うと、「え、海外！？でも、エネルギー？」というものでした。その時の私は、エネルギーについては最低限の知識しかなかったために心配や不安もありましたが、今まで深く学んだことのない分野への挑戦に興味湧き、恐る恐る応募してみることにしました。幸運なことに参加が決まり、この研修は、エネルギーについてはもちろん、他国の異文化、歴史を感じることもできた貴重な体験になりました。

フランスでは、ラ・アグ再生処理工場を見学しました。行く前まで、私は災害の少ないフランスよりも日本の方が安全対策では優れているだろうと思っていたのですが、このラ・アグ再生処理工場では情報公開に対する取り組みが優れていて、地域の方々に今この工場で何が起きているのか、どんな情報も包み隠さず公開していることが印象的でした。このことが、この再生処理工場が地域の住民に信頼を置かれている理由なのだと感じました。

次に行ったスウェーデンで最も興味深かったのは、ロイヤルシーポートの見学でした。ロイヤルシーポートでは、個人のゴミの排出量を、ゴミ箱を使って数値化したり、なるべく車を使わないように、自転車で移動する取り組みをしていました。日本でもロイヤルシーポートを手本とした環境に良い都市を作れば、全国にエコ住宅を始めとしたエコな取り組みを広げ、省エネにも繋げていけるのではないかと感じました。その他にもスウェーデンでは、街中の至る所に「エコ」が溢れているのも新鮮で興味がわきました。電気を必要以上に使わないようにキャンドルを至る所に置いて省エネに努めていたり、ホテルでは、一つのゴミ箱が ORGANIC、PAPER、OTHER MATERIALS の3つに色分けされゴミの分別を促しているのにも驚きました。スウェーデンは、国全体、国民全員が環境に優しい暮らしを求めている気がしました。

それらに加えて私が衝撃を受けたのは、両国の進んだエネルギー教育でした。フランスやスウェーデンでは、日本と比べて、環境問題やエネルギー問題に対する学習が生涯教育として遥かに根付いていました。そして、現地の高校生が、自分の国の問題や課題について考えを持ち、意見や反論を堂々と発表していた姿も印象的でした。その姿を見て、私もこれから、環境、エネルギー問題をはじめとする様々な国や世界規模での問題について、主体的に考え、行動していきたいと感じました。

また、今回の研修で、普通の高校生活では滅多に行けないようなフランス、スウェーデンに渡り、目的を持って学んだり現地の高中生と交流したことは、私を大きく成長させてくれました。英語での自己紹介やプレゼンの発表、ディスカッションの準備などは、慣れないこともあり大変でしたが、6人全員で協力しながら乗り越えたことも一つの思い出になりました。これに満足するのではなく、これからこの経験をバネにもっと色々なことに挑戦していきたいです。

最後に、応援や支援をしてくださった多くの方々、そして一緒に楽しいことも苦しいことも一緒に乗り越え、最高の思い出を共有した 5 人に、改めて感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。